

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300139		
法人名	テルウェル東日本株式会社		
事業所名	グループホームひなたぼっこ	ユニット名	1F
所在地	仙台市若林区五十人町77-2		
自己評価作成日	令和 5年 9月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歴史ある地区で近隣住民の皆様にご協力いただき、入居者様と職員がのんびりと生活しています。家事のお手伝い・歌・園芸等、お一人おひとりが好きな事を楽しんで行える環境作りに努めています。コロナ禍による規制・制限も緩和となったため、外出支援を再開しています。医療面は訪問診療にて対応しています。正看護師が常勤、24時間体制で健康管理と医療連携を行っております。旬の食材などを使用した食事は毎食手作りし、入居者様からのリクエストもいただきながら和気あいあいとした食卓を提供させていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 10月 25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄河原町駅から徒歩10分の閑静な住宅街の一角にある。1階が8部屋で2階が9部屋の2階建て、中庭を囲む回廊型になっている。毎月、町内会長が市政だよりを持っての来訪や行事の参加に行き来がある。入居者が外にいると地域住民が知らせてくれる。町内会緊急時応援連絡網が整備されている等、地域との関係は良好である。職員は勤続年数の長い方が多く、入居者と家族に安心感を与えている。「笑顔・安心・安らぎ」を理念に掲げ、職員は笑顔で接することで、入居者の笑顔を引き出すケアに努めている。入居者と職員、家族は信頼関係が繋がっており、家庭的で明るく、笑顔の絶えないホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細) (事業所名 グループホームひなたぼっこ) 「ユニット名 1F」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの見える場所に掲示し、全職員が常に心掛け支援にあたっている。	基本理念を基に「笑顔・安心・安らぎ溢れるホーム」の運営理念・方針を継続している。各ユニット壁に掲げてある。毎月のミーティングで振り返りをしている。職員が笑顔で接することは入居者の笑顔と安心に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	希望された入居者様が町内会に加入している。コロナが5類になったことで、中断していた町内会行事への参加やホーム行事への参加お願いを再開した。不定期ではあるが、ボランティアの方の訪問もある。	町内の祭りが再開され、子供神輿を入居者は笑顔で迎えた。町内会長が毎月市政だよりを届けてくれる。近隣住民の方が庭に咲いた花を持ってくる。週2回ボランティアの方の来訪で、一緒に掃除洗濯等をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターのご協力をいただき不定期で研修会を行っていたが、コロナ禍により中止。今後、再開したい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、書面にて運営推進会議を行っている。活動内容や予定を報告している。ご意見やご要望をいただける用紙も同封している。	地域包括支援センター職員や町内会長、民生委員、家族全員に書類を郵送や手渡しをしている。町内会長から町内行事の情報がある。家族から労いの言葉や何F12:F19でも手伝いますとコメントがある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり地域ケア会議に参加していたが、現在は中止となっている。市主催の研修に参加している。地域包括支援センターや区役所に出向いた際、状況を報告している。	区分変更や更新、生活保護関係の手続きで担当職員に相談、助言を得ている。事故報告やホームの空室状況等で連携を密にしている。介護職スキルアップ研修の年間予定が届き、職員は希望の研修に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、身体拘束の具体的な内容を理解する為に定期的に研修会を開催している。日中は施錠せず、入居者様の所在確認や安全確保に努めている。	身体拘束廃止委員会を3か月毎に開催し、議事録を職員に周知している。内部研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外に出たい方は抑制せず、一緒に行動する。「外にいるよ」と近隣住民が知らせてくれる体制が出来ている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修会を実施、外部研修にも参加している。虐待に繋がるグレーゾーンがないか、職員一人ひとりが注意している。	外部研修「高齢者虐待防止法の理解と対応」に参加した。不適切ケアの自己点検チェックシートを集計し、話し合っている。不適切な言葉や行為があった時、その場で職員同士で注意する関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制限にかんする研修に参加し資料の回覧もしている。入居者様に制度を利用している方が数名おり、理解と活用方法を体験している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結・解約において十分に説明し、又相手の不安や疑問を伺い、納得していただけるまで話し合うように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議録と一緒に、ご意見・ご要望をいただける用紙を郵送している。電話で様子をご報告する時にもご意見等伺うようにしている。	面会時や電話で意見や要望を聞いている。「なんでも手伝います」「太って来たので食事制限を」等に対応した。入居者個人の病状説明は、医師から家族に直接電話がある事や毎月の便りは喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の定期面談や随時面談を行い、意見や要望を聞いている。	毎月のユニット会議で意見や要望を聞き話し合っている。年2回法人のセンター長の個別面談がある。職員要望でコードレス掃除機を購入した。、法人は資格取得を奨励し、研修費用は全額負担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常会話や行動の中から一人お一人が何を望んでいるか、どんな事柄に興味を持ち楽しく安心して過ごせるか把握しスタッフ連携してより良いサービスが提供出来るように考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居前に提出された実調書類・健診診断書等を読み込みご本人の生活歴・馴染の暮らし・家族にし		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加や他事業所訪問などで交流を図り情報交換している。	法人事業所センター長会議に参加し交流を図っている。外部研修に参加し、グループワークで一緒になった同業者と空き情報等の情報交換を行っている。調剤薬局の薬剤師に薬の相談やアドバイスを貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちに寄り添い、傾聴するように努めている。ご本人の要望・不安を共有し、一つひとつ解消し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と細かな情報共有し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「大切なこと」「やりたいこと」「困っていること・助けて欲しいこと」を見極め優先し、サービス内容を考え対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと共に身の回りの掃除やご自身の洗濯物たたみなどを行い生活を支えあう同士としての関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	陽性者の増加傾向により面会の可否を判断している。入居者の日々の様子や情報を家族に報告し情報を共有している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみのボランティアさんとの交流を図り刺激を受けている。関係が途切れない様に要望があれば電話を掛けたり手紙を出している。	週2回来訪するボランティアの方と談笑や花の世話等一緒に行っている。暑中見舞いのはがきを家族に送っている。訪問理容師や通院時に家族と出かける等、馴染みの人や場所等の関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係障害にならないように相性に配慮した席替えを行っている。難しい部分もある方もスタッフが間に入り孤立しないように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も定期的に連絡を取り様子を伺い、相談や支援ができる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中からお一人おひとりが何を望んでいるか・どんな事柄に興味を持ち楽しく安心して過ごせるかを把握し、全職員で連携しより良い支援が提供できるよう努めている。困難な場合も「ご本人第一」と職員間で共有している。	日常の何気ない会話から思いや意向を把握し、ケース記録に残して話し合っている。出来る限り希望に応えるよう支援している。編み物を好む方は、集中し過ぎるので途中で声がけをする事を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査書類や健康診断書等からバックグラウンドを収集している。入居されてからは直接会話をする事によって情報収集し、より良い支援に繋げていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックから始まり、顔色・歩行の様子・食事量の観察を行い、その日のお一人おひとりの心身の状態に合わせたお手伝いやレクリエーション・運動を提供している。ご本人のペースを第一としている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の記録にご本人の様子(言動・表情)を詳しく記入し、毎月のカンファレンスで話し合っている。ご家族からも希望を伺い、状態に変化があればその都度プランを変更している。	毎月のユニット会議で、モニタリングを行い、カンファレンスで話し合っている。介護計画は6か月毎に見直している。外気浴で気分転換を図る、洗濯たたみ等援助内容を見直し、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を通じ新たな気づきや工夫が生まれるように努力している。職員間で共有できるよう、日々の様子や対応方法を簡潔に記録している。記録がカンファレンスやケアプランに生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の現状を把握し、それらに沿った支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではできなかった町内会行事への参加も徐々に行っていく。ホーム行事には町内会の方が参加してくださっている。不定期だがボランティアの方の訪問があり交流を楽しまれている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じたかかりつけ医となっている。また月2回の訪問診療を行っており看護師、又は職員立会いの下、状態把握に努めている。24時間緊急体制も整っている。	かかりつけ医受診は2名で家族が同行している。他は訪問診療を利用している。受診結果は個人記録に記載し、職員間で周知している。眼科等専門科受診は、家族対応となっている。必要に応じて歯科医の訪問がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活・入浴時などに於いて、入居者様の様子の変化や身体の変化などを看護師に伝えている。状態観察し、かかりつけ医に指示を仰ぎ必要に応じて専門診療科の受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にサマリーを提供し、必要な情報を病院へ提供している。連携室との情報交換を行い、退院も安心してホームで生活ができるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合と看取りに関する指針を定め、契約時に説明を行っている。状態変化があった場合は医師とご家族が面談、あるいは電話で説明を行い方針を共有している。	「重度化した場合における対応の指針」を明文化し、入居時に本人と家族に説明している。状況に応じて医師や関係者と話し合い、方針の統一を図っている。年1回「緊急時における延命等に関する意思確認書」を入居者全員と交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。発生時速やかに対応できるよう、消防署職員による救命講習を受講し、実践力を身につけるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方にも参加いただき、年2回避難訓練を実施している。各災害の対策マニュアルを作成し、全職員に周知している。	日中と夜間想定で訓練を行っている。2階の方は非常階段を手引きや背負い、担架を使って行った。町内会緊急時応援部隊連絡網があり、応援体制は整備され訓練時も参加がある。毎回振り返りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの個性や性格などを把握し、個々の人格を尊重しさり気ない声掛けや配慮を心掛けている。	排泄や入浴、着替え時には、その方のプライドを傷つけないよう注意し対応している。入室時はノックし声をかける。失敗があった時は、耳元で声をかけ居室で交換している。下の名に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心してご自身の思いや希望を言える環境作りに努めている。お一人おひとりの希望を汲み取れるよう、楽しい会話の中から情報をキャッチし自己決定を促せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、入居者様お一人おひとりの生活ペースを大切にしている。コロナ禍による制限も残っているが、可能な限りご本人の希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容にてカットをお願いしている。ご家族のご協力にて季節に合わせた服装ができるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けなど、お一人おひとりのできる範囲で職員と一緒にやっている。	献立は、入居者の希望を取り入れ職員が調理している。料理が得意の入居者がおり、巻きずしやカレーライスを作っている。誕生会は寿司、敬老会は天ぷら等を楽しんだ。ファミリーレストラン等に外食に行った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量や食事形態など、お一人おひとりに合わせて提供し、摂取量・水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様お一人おひとりに合った口腔ケアを行い、自力で困難な方には介助を行っている。また必要時、訪問歯科受診の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様お一人おひとりの排泄状況を把握し、トイレでの排泄ができるよう支援している。	排せつチェック表でパターンを把握し、定時や顔の表情、動作等のトイレサインを見逃さずトイレ誘導をしている。オムツの方は居室で交換している。夜間は安眠を優先し、起こさないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や飲食物の工夫で、予防に繋げる支援をしている。個々に排便状況を記録し、便秘の予防と対応に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	体調確認の必要な方はバイタルチェックを行い、お一人おひとりの状況に合わせてゆったりと入浴できるようにしている。入浴拒否の方には声掛け工夫の対応をしている。	週2～3回の入浴としているが、希望があればいつでも入浴できる。入浴剤で色や香り、歌を歌う、職員とおしゃべりする等、安全で安心の入浴を楽しめるよう支援している。シャワー浴の方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節毎の状況を考え(寝具・温度・衣服等)支援している。お一人おひとりの好きな時間に休んでいただいている。その中で適度に声掛けし、夜間安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常用している薬に関しては、職員が確認できる場所に配置。更に追加した薬に関しては口頭で説明を受け、各勤務者が服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの楽しみ方や力に合わせた役割をしていただいている。外気浴などで気分転換をしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前年度よりコロナ禍による規制・制限も緩和された。感染対策を継続しながら、散歩や買い物・ドライブ等の外出の機会を増やしている。	少人数で花見や七夕祭り、紅葉見物等のドライブに行った。天気の良い日はホーム周辺を散歩、コンビニにおやつを買いに行く等している。中庭のデッキテラスでお茶飲み、玄関先のベンチで日向ぼっこなど、外に出る機会を多くするよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍での制限もあり、職員が希望を聞いて支援していた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のハガキを作成していただき、大切なお家族やご友人とやり取りできるよう支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の照明を工夫している。壁には入居者様の日常生活の写真・季節毎の飾り付けをし、居心地良く過ごせるよう支援している。	食堂は定期的に換気を行い、加湿器や空気清浄機を置いて温湿度を調整している。壁に手作りのカレンダーや折り紙の落ち葉、栗の木が飾られ季節を感じる。車いすで出来る調理台で食事の準備をしている方等、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談笑できるよう、廊下に椅子を設置している。一人になりたい時は居室でテレビ・ラジオ・CD鑑賞を楽しまれている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様ご自身の使い慣れた物をお持ちいただいている。ご自宅での生活に近い環境作りを行い、居心地良く生活できるよう配慮している。	テレビやクローゼット、洗面台が備え付けである。ベッドや椅子、テーブル、仏壇を持ち込み、使い易いよう配置している。壁に家族の写真が貼ってある。編み物や読書、CDを聞く等居心地の良い自分の居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室出入口に名前を、トイレ・浴室等もドアに表記し迷うことなく過ごされている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300139		
法人名	テルウェル東日本株式会社		
事業所名	グループホームひなたぼっこ	ユニット名	2F
所在地	仙台市若林区五十人町77-2		
自己評価作成日	令和 5年 9月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歴史ある地区で近隣住民の皆様にご協力いただき、入居者様と職員がのんびりと生活しています。家事のお手伝い・歌・園芸等、お一人おひとりが好きな事を楽しんで行える環境作りに努めています。コロナ禍による規制・制限も緩和となったため、外出支援を再開しています。医療面は訪問診療にて対応しています。正看護師が常勤、24時間体制で健康管理と医療連携を行っております。旬の食材などを使用した食事は毎食手作りし、入居者様からのリクエストもいただきながら和気あいあいとした食卓を提供させていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 10月 25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄河原町駅から徒歩10分の閑静な住宅街の一角にある。1階が8部屋で2階が9部屋の2階建て、中庭を囲む回廊型になっている。毎月、町内会長が市政だよりを持っての来訪や行事の参加に行き来がある。入居者が外にいと地域住民が知らせてくれる。町内会緊急時応援連絡網が整備されている等、地域との関係は良好である。職員は勤続年数の長い方が多く、入居者と家族に安心感を与えている。「笑顔・安心・安らぎ」を理念に掲げ、職員は笑顔で接することで、入居者の笑顔を引き出すケアに努めている。入居者と職員、家族は信頼関係が繋がっており、家庭的で明るく、笑顔の絶えないホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細) (事業所名 グループホームひなたぼっこ)「ユニット名 2F」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの見える場所に掲示し、全職員が常に心掛け支援にあたっている。		基本理念を基に「笑顔・安心・安らぎ溢れるホーム」の運営理念・方針を継続している。各ユニット壁に掲げてある。毎月のミーティングで振り返りをしている。職員が笑顔で接することは入居者の笑顔と安心に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	希望された入居者様が町内会に加入している。コロナが5類となったことで、中断していた町内会行事への参加やホーム行事への参加お願いを再開した。不定期ではあるが、ボランティアの方の訪問もある。		町内の祭りが再開され、子供神輿を入居者は笑顔で迎えた。町内会長が毎月市政だよりを届けてくれる。近隣住民の方が庭に咲いた花を持ってくる。週2回ボランティアの方の来訪で、一緒に掃除洗濯等をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターのご協力をいただき不定期で研修会を行っていたが、コロナ禍により中止。今後、再開したい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、書面にて運営推進会議を行っている。活動内容や予定を報告している。ご意見やご要望をいただける用紙も同封している。		地域包括支援センター職員や町内会長、民生委員、家族全員に書類を郵送や手渡しをしている。町内会長から町内行事の情報がある。家族から労いの言葉や何F12:F19でも手伝いますとコメントがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり地域ケア会議に参加していたが、現在は中止となっている。市主催の研修に参加している。地域包括支援センターや区役所に出向いた際、状況を報告している。		区分変更や更新、生活保護関係の手続きで担当職員に相談、助言を得ている。事故報告やホームの空室状況等で連携を密にしている。介護職スキルアップ研修の年間予定が届き、職員は希望の研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、身体拘束の具体的な内容を理解する為に定期的に研修会を開催している。日中は施錠せず、入居者様の所在確認や安全確保に努めている。		身体拘束廃止委員会を3か月毎に開催し、議事録を職員に周知している。内部研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外に出たい方は抑制せず、一緒に行動する。「外にいるよ」と近隣住民が知らせてくれる体制が出来ている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修会を実施、外部研修にも参加している。虐待に繋がるグレーゾーンがないか、職員一人ひとりが注意している。		外部研修「高齢者虐待防止法の理解と対応」に参加した。不適切ケアの自己点検チェックシートを集計し、話し合っている。不適切な言葉や行為があった時、その場で職員同士で注意する関係が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修に参加し、資料の回覧もしている。入居者様に制度を利用している方が数名おり、理解と活用方法を体験している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結・解約等において十分に説明し、又相手の不安や疑問を伺い納得していただけるまで話し合うように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議録と一緒に、ご意見・ご要望をいただける用紙を郵送している。電話で様子を報告する時にもご意見等伺うようにしている。	面会時や電話で意見や要望を聞いている。「なんでも手伝います」「太って来たので食事制限を」等に対応した。入居者個人の病状説明は、医師から家族に直接電話がある事や毎月の便りは喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の定期面談や随時面談を行い、意見や要望を聞いている。	毎月のユニット会議で意見や要望を聞き話し合っている。年2回法人のセンター長の個別面談がある。職員要望でコードレス掃除機を購入した。、法人は資格取得を奨励し、研修費用は全額負担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の報奨金や評価が給与に反映する等、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を実施している。各職員が希望する外部研修へ参加できるよう対応している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加やお付き合いのある他事業所訪問などで交流を図り情報交換している。	法人事業所センター長会議に参加し交流を図っている。外部研修に参加し、グループワークで一緒になった同業者と空き情報等の情報交換を行っている。調剤薬局の薬剤師に薬の相談やアドバイスを貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちに寄り添い、傾聴するように努めている。ご本人の要望・不安を共有し、一つひとつ解消し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と細かな情報共有し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「大切なこと」「やりたいこと」「困っていること・助けて欲しいこと」を見極め優先し、サービス内容を考え対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご本人には困難なことでも希望があったら気持ちを汲み取り、一緒に行うように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人がご家族を忘れていると思われる時は積極的にご家族の話をして絆を保てるようにしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類になり面会や外出制限も緩和された為、馴染みの場所や買い物等に出掛けられるよう支援している。	週2回来訪するボランティアの方と談笑や花の世話等一緒に行っている。暑中見舞いのはがきを家族に送っている。訪問理容師や通院時に家族と出かける等、馴染みの人や場所等の関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がお互いの居室を行き来したり、外出時は一緒に出掛けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も定期的に連絡を取って様子を伺い、相談や支援ができる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を話題にし、その話の中からご本人の思いや希望を汲み取り、それに沿った支援を行っている。	日常の何気ない会話から思いや意向を把握し、ケース記録に残して話し合っている。出来る限り希望に応えるよう支援している。編み物を好む方は、集中し過ぎるので途中で声がけをする事を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時に生活状況や家族からの情報を多く集めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペース・動きの観察、ご本人のできることを確認し働きかけをしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	丁寧なアセスメントを行い、ご本人・ご家族の困っていることを多職種と話し合い、チーム全体で取り組める内容に努めている。	毎月のユニット会議で、モニタリングを行い、カンファレンスで話し合っている。介護計画は6か月毎に見直している。外気浴で気分転換を図る、洗濯たたみ等援助内容を見直し、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化・様子について詳しく記入し、情報共有できるよう意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナが終わったら外出や外部との交流会等を大事にしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との関わりがうまくできない中でもお祭り等で関わりを持ち参加している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じたかかりつけ医となっている。また月2回の訪問診療を行っており看護師、又は職員立会いの下、状態把握に努めている。24時間緊急体制も整っている。	かかりつけ医受診は2名で家族が同行している。他は訪問診療を利用している。受診結果は個人記録に記載し、職員間で周知している。眼科等専門科受診は、家族対応となっている。必要に応じて歯科医の訪問がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外部受診時や緊急搬送時に看護師が付き添い病院と家族の間に入り、受診後は報告書で職員も状態を把握できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にサマリーを提供し、必要な情報を病院へ提供している。連携室との情報交換を行い、退院後も安心してホームで生活ができるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合と看取りに関する指針を定め、契約時に説明を行っている。状態変化があった場合は医師とご家族が面談、あるいは電話で説明を行い方針を共有している。	「重度化した場合における対応の指針」を明文化し、入居時に本人と家族に説明している。状況に応じて医師や関係者と話し合い、方針の統一を図っている。年1回「緊急時における延命等に関する意思確認書」を入居者全員と交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。発生時速やかに対応できるよう、消防署職員による救命講習を受講し、実践力を身に付けるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方にも参加いただき、年2回避難訓練を実施している。各災害の対策マニュアルを作成し、全職員に周知している。	日中と夜間想定で訓練を行っている。2階の方は非常階段を手引きや背負い、担架を使って行った。町内会緊急時応援部隊連絡網があり、応援体制は整備され訓練時も参加がある。毎回振り返りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助する際は声掛けのタイミングや場所に配慮している。	排泄や入浴、着替え時には、その方のプライドを傷つけないよう注意し対応している。入室時はノックし声をかける。失敗があった時は、耳元で声をかけ居室で交換している。下の名に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方は少ない。日々、ご本人の様子を確認している。さり気なく希望を伺っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせ、ご本人の好きな時間を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな洋服を選んでいただいている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のリクエストにお応えしたり、昼食・おやつ・夕食を一緒に作ったりしている。	献立は、入居者の希望を取り入れ職員が調理している。料理が得意の入居者がおり、巻きずしやカレーライスを作っている。誕生会は寿司、敬老会は天ぷら等を楽しんだ。ファミリーレストラン等に外出に行った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜が苦手で残してしまう方には小さく切ったり、水分(お茶)をあまり摂らない方にはご本人の好きな飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で行える方は食後に声掛けしている。口腔ケア介助を拒否されることが多い方は食後に必ずではなく、落ち着いている時に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前や食後・休息前など、各々のパターンに合ったタイミングで排泄の声掛け・介助を行っている。	排せつチェック表でパターンを把握し、定時や顔の表情、動作等のトイレサインを見逃さずトイレ誘導をしている。オムツの方は居室で交換している。夜間は安眠を優先し、起こさないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをシートに記録し、排便有無の把握をしている。便秘予防として水分・乳製品・食物繊維を摂取していただき、日々の生活に適度な運動を取り入れている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的に週2回の利用だが、ご本人から希望があれば対応している。入浴ができない際は清拭や足浴にて対応している。	週2～3回の入浴としているが、希望があればいつでも入浴できる。入浴剤で色や香り、歌を歌う、職員とおしゃべりする等、安全で安心の入浴を楽しめるよう支援している。シャワー浴の方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や前日の睡眠時間等を職員間で報告し、安眠できるよう努めている。寝具の清潔保持を心掛け、季節に応じた室温や湿度管理にも気を配り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬剤情報の確認を行えるように保管し、用途の理解に努めている。服薬の変更時等には体調の変化がないか観察し記録・周知していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・掃除や裁縫が毎日の楽しみ・やりがいになっている。職員と買い物へ行き、好みのおやつを選んで入居者様同士楽しめることもある。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前年度よりコロナ禍による規制・制限も緩和された。感染対策を継続しながら、散歩や買い物・ドライブ等の外出の機会を増やしている。	少人数で花見や七夕祭り、紅葉見物等のドライブに行った。天気の良い日はホーム周辺を散歩、コンビニにおやつを買いに行く等している。中庭のデッキテラスでお茶飲み、玄関先のベンチで日向ぼっこなど、外に出る機会を多くするよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を所持している方はいらっしゃらず、全員金庫でお預かりしている。8月にホームでのコロナ感染があり買い物も行けなかったので預けていることに納得されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の生活に合わせ(休日や就業後)電話を掛けていただいている。手紙を書くことは難しくなってきたので、名前や簡単な言葉を書いていただいている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は整理整頓を心掛け清潔にしている。入居者様と一緒に準備・作成した季節感のある飾り付けを壁に飾っている。	食堂は定期的に換気を行い、加湿器や空気清浄機を置いて温湿度を調整している。壁に手作りのカレンダーや折り紙の落ち葉、栗の木が飾られ季節を感じる。車いすで出来る調理台で食事の準備をしている方等、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人おひとりの人格を尊重し、プライバシーを守る声掛け等に努めている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に配置する物をご自宅で使い慣れた家具等を優先にお持ちいただいている。	テレビやクローゼット、洗面台が備え付けである。ベッドや椅子、テーブル、仏壇を持ち込み、使い易いよう配置している。壁に家族の写真が貼ってある。編み物や読書、CDを聞く等居心地の良い自分の居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札を掲げて迷うことがないようにしている。本が好きな方はご自宅で使っていた椅子で読書していただき、編み物が得意な方はお一人でゆったり作業できる環境づくりに努めている。		